

ネットワークデータによる、「心・身・文化」の健康社会学

著者	桜井 芳生
別言語のタイトル	Health Sociology on “mind, body and culture” by Network data
URL	http://hdl.handle.net/10232/14621

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 4 月 25 日現在

機関番号：17701

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2009 ～ 2011

課題番号：21530536

研究課題名（和文）：ネットワークデータによる、「心・身・文化」の健康社会学

研究課題名（英文）：Health Sociology on “mind, body and culture” by Network data

研究代表者：桜井 芳生 (SAKURAI YOSHIO)

鹿児島大学・法文学部・教授

研究者番号：50264396

研究成果の概要（和文）：

延 10 回程度、ネットワークデータを収集できた。まずは、ネット形成の要因を分析した。就活意識、使える金、階層意識、化粧代の類似が、友人が形成されるさいに、大きな影響をもっていることが確認された。ネット構築後分析に関しても、Christakis らと同様、われわれは、「ネットワーク指標」以外の具体的タイ関係を重視して分析を継承した。当初の予想と異なっ、いわゆるネットワーク指標、とくにボナッチ中心性が大きな影響をもっていることが確認できた。また、恋愛、髪の色、幸福感、英語学習意識の伝播が確認できた。

研究成果の概要（英文）：We could get 10 times of network data. We analyzed the causes of formation of networks. We found consciences on getting jobs, disposal money, consciences on his/her class and expenses on cosmetics as the causes of networks. We found the spreads of romantic loves, coloring hair, happiness and motivations on learning English.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009 年度	2,100,000	630,000	2,730,000
2010 年度	500,000	150,000	1,040,000
2011 年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
総計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会学・社会学

キーワード：ネットワーク ボナッチ 中心性 健康 社会学 流行 伝播 友人

1. 研究開始当初の背景

本研究プロジェクトには、「手本」が存在した。代表者研修留学していたハーバード大学社会科学・保健医療政策学科併任教授 Nicholas Christakis 博士らによる、2007年 "The Spread of Obesity in a Large Social Network over 32 Years" (357:370-379 New England Journal of Medicine (Google Scholar による非引用数 76 (08年9月26日現在))、ならびに、同 2008年 "The Collective Dynamics of Smoking in a Large Social Network" である。前者の論文は、健康社会学にネットワーク分析を応用したブレイクスルーといえる論文である。ここで、Christakis 博士は、30 有余年にわたる「フラミンガム心臓病疫学調査」のデータを用い、BMI (ボディマスインデックス) で計測された「肥満」が、具体的な「対人ネットワーク」を経由して伝播していくことを実証した。第二論文においては、同データを分析し、「喫煙」習慣が、同様に対人ネットワークを伝染していくことをも実証した。我々はまず日本のフィールドにおいて、同様なデータセットによる本論文の追試を試行した。しかし、日本において対応するデータセットである「久山町心臓病疫学調査プロジェクト」においてはネットワークデータが収集されていないことが判明した。このためわれわれは日本における疫学データセットの利用は断念し、独自にあらたにデータ収集をすることとした。

Christakis 研究に倣い、われわれもホールネットワークデータ (ある集団「全員」のネットワーク関係のデータ) を収集し分析をおこなう。「健康」社会学に限らず、残念ながら、日本の社会学においては、ネットワークデータによる目覚ましい実証的知見は未だ得られていない。

2. 研究の目的

ネットワークデータを収集し、分析することで得られる社会学的意義は以下である。

まず第一に、社会学の発生以来の「社会実在論か社会名目論か」の対立状況に、大きな止揚的回答を提起する。すなわち、「社会は実在する。ネットワークとして。」「社会とは、ネットワークである」という命題によってである。

第二に、「類が友を呼ぶ」のか「友が類になるのか」という一種のニワトリ卵問題に、実証的な回答をあたえる。われわれは、全くネットワークがない状態も含め、一つの同じ集団に対して、複数回ネットワークデータの収集をおこなう。こうすることによって、「ネットワークがなかったどのような属性をもつ個人間に、ネットワークタイが張られるのか (どのような「類」が「友」を呼ぶのか)」を実証的にあきらかにする。その一方で、ネットタイが「張られたあと」で、そのタイを「伝播」して個人のなんらかの属性 (Christakis 研究においては「肥満」) が共有化される様子も実証的に把握する。いわば「友が類になる」様子をみてとることができる。

3. 研究の方法

メディア教育開発センター」が開発した「REAS (リアルタイム評価支援システム)」を利用した。REAS は、メディア教育開発センターのサイトにアクセスすることで、どのような研究者でも、容易に、ウェブアンケートを構築できるシステムである。われわれは、本システムをつかい、あるクラス全体の

ホールネットワークデータならびに、他の通常の社会調査データを収集した。これを統計ソフトで分析した。

4. 研究成果

延 10 回程度、ネットワークデータを収集できた。まずは、ネット形成の要因を分析した。就活意識、使える金、階層意識、化粧代の類似が、友人が形成されるさいに、大きな影響をもっていることが確認された。ネット構築後分析に関しても、Christakis らと同様、われわれは、「ネットワーク指標」以外の具体的タイ関係を重視して分析を継承した。当初の予想と異なって、いわゆるネットワーク指標、とくにボナチッチ中心性が大きな影響をもっていることが確認できた。また、恋愛、髪の色、幸福感、英語学習意識の伝播が確認できた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 6 件)

- ① SAKURAI Yoshio, 2011 “Middle aged beautiful women don't like their futures? - A Finding of “Komachi”-effects ? - effects of the measure of the beauty on the temporal discount rates - ” 『鹿児島大学法文学部紀要人文学科論集』 Vol.73 p.1 -8 【査読無し】
- ② 大山 小夜 2011 「ギャンブル依存」にどう取り組むか 『ホームレスと社会』 4, 63-69 【査読無し】
桜井 芳生 2011 「卢曼社会系统论中的媒介观简介」 『新闻与传播评论』 Vol.2010 p.49 -55 【査読無し】
- ④ 桜井 芳生 2010 「グループソーシャライゼーション型パスワード改訂」 仮説--「ただ乗り」問題対処としてのプラティーク変異の、計算機実験による検証 『社会分析』 (37), 135-154, 2010 【査読有り】
- ⑤ 桜井 芳生 2010 「教育ゲームにおける、

学力の主観的認知完了による勉強期待」 仮説』 『研究論文集;教育系・文系の九州地区国立大学間連携論文集』 4(1), 【査読有り】

⑥ 加藤 源太 2009 「医療専門職における自己コントロールの再検討--日本における新しい医師卒後臨床研修を事例として」 『ソシオロジ』 54(2), 3-18 【査読無し】

[学会発表] (計 1 件)

SAKURAI Yoshio, 2009 “The effect of social economic status, drinking and/or one's stance on sexual separation of work in making network ties and the effect of net ties spreading happiness, romantic relationships, getting jobs and "Fujoshi" 日本社会学会英語部会 2009 年 10 月 11 日、立教大学 (東京都)

[図書] (計 1 件)

科研費 『ネットワークデータによる、「心・身・文化」の健康社会学』 研究論文集 (オンライン版のみ。
<http://ir.kagoshima-u.ac.jp/handle/10232/13105>) 2012 年。95 頁。

[その他]

ホームページ等

<http://ir.kagoshima-u.ac.jp/handle/10232/13105>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

桜井 芳生

(鹿児島大学法文学部教授)

研究者番号 : 50264396

(2) 研究分担者

大山 小夜

(金城学院大学・人間科学部・准教授)

研究者番号 : 10330333

(4) 研究協力者

新 睦人 (奈良女子大学名誉教授)

研究者番号 : 70031656

片岡 栄美 (駒澤大学・文学部・教授)

研究者番号 : 00177388

加藤 源太 (京都大学 / 医学(系)研究科(研究院))

研究者番号 : 20571277

藤山 英樹 (獨協大学・経済学部・教授)

研究者番号 : 80327014

石川 洋明 (名古屋市立大学・教授)

研究者番号 : 20201915